

# 屋久島永田浜

(やくしまながたはま)

位置：北緯30度24分、東経130度25分／標高：10m以下／面積：10ha／湿地のタイプ：砂浜海岸／保護の制度：国立公園特別地域／所在地：鹿児島県上屋久町／登録：2005年11月

湿地のタイプ：砂浜海岸



前浜(手前)といなか浜

## 湿地の概要：

屋久島は九州の南方海上70kmにある周囲132km、面積5万ヘクタールの島で、屋久島永田浜は、屋久島北西部の花崗岩が風化した粗い砂の海岸である。幅が約30m、長さ約1kmの前浜と約2kmのいなか浜の、二つの小さな砂浜である。急峻な海蝕崖にかこまれた屋久島では数少ない、貴重な砂浜の海岸である。

この小さな砂浜に毎年、アカウミガメが産卵にやってくる。永田浜は北太平洋地域でもっとも高密度にアカウミガメの産卵がおこなわれる海岸で、アカウミガメの生活史にとって重要な場所となっている。

## アカウミガメの産卵：

アカウミガメは、産卵シーズンの5月～8月になると、夜9時ごろから永田浜に上陸をはじめ、砂の中に40分ほどかけて産卵する。1回の産卵で60～100個の卵を産み、多い日には40頭ほどのアカウミガメがいっせいに産卵する。2005年の上陸頭数は2799頭で、そのうちの産卵頭数は1394頭。産卵から2～3カ月後、孵化した子ガメは海へと巣立っていく。

## 保全の取り組み：

アカウミガメの産卵環境を保全、管理するために1985年、NGO「屋久島うみがめ館」が組織され、アカウミガメの生態調査、砂

浜の清掃、産卵シーズン中のパトロール、孵化までの卵の監視、活動に参加するボランティアの訓練などをおこなっている。こうした努力によってアカウミガメは、毎年、安全に産卵、孵化をくりかえしている。いなか浜には展示資料館「うみがめ館」が設置されている。

## 世界自然遺産の島：

亜熱帯気候の屋久島は、年間の平均気温が20℃前後、降水量は4000mm以上で、樹齢1000年以上といわれる屋久スギに代表される原生自然と、海岸から山頂(宮之浦岳1935m)までの標高差に異なった植生の垂直分布が見られるという、特異な自然環境にある。1993年、世界自然遺産に登録され、年間30万人の観光客がおとずれる。島の人口は1万4000人。

【アカウミガメ】ウミガメ科の大型ウミガメ。体長70～100cm。大きなものは甲羅が1m、体重180kgにもなる。体色は赤褐色、黄褐色。貝類を食べ、頭部が頑丈で大きい。熱帯から温帯の海域に生息し、ウミガメのなかでもっとも北で産卵する。産卵時以外は海を回遊して生活しているが、その行動圏ははっきりわかっていない。

海へ巣立っていく孵化した子ガメ



産卵中のアカウミガメの甲羅の長さを記録する

## ●関係自治体

上屋久町役場 Tel: 0997-42-0100

<http://www.kamiyaku.jp/>

